

総会報告

第 24 回通常総会報告

日 時：平成 18 年 3 月 10 日(金) 13 時 30 分～ 14 時 30 分

会 場：本郷瀬川ビル(東京都文京区本郷 2 35 10)

出席社員数：99 名(内委任状 70 名)

(社員数総数：103, 総会成立の定数 52 名以上)

議 案：

- (1) 平成 17 年度事業報告 [第 1 号議案]
- (2) 平成 17 年度収支決算書報告 [第 2 号議案]
- (3) 平成 18 年度事業計画 [第 3 号議案]
- (4) 平成 18 年度収支予算 [第 4 号議案]
- (5) 個人会員除名処分の件 [第 5 号議案]
- (6) 平成 18 年度役員 [第 6 号議案]
- (7) 平成 18 年度評議員 [第 7 号議案]

議 事：

午後 1 時 30 分, 定款第 24 号に基づき内山隆会長が議長となり, 出席者が定款 26 条に定める定足数に達しているとの旨報告の上, 第 24 回通常総会の開会を宣した。

次いで, 以下の各議案について提案および詳細な説明があり, 逐次審議を行った結果, いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

【第 1 号議案】

平成 17 年度 事業 報 告
(自平成 17 年 1 月 1 日 至平成 17 年 12 月 31 日)

I 庶 務

1. 会員状況

	平成 17 年 12 月 31 日現在	平成 16 年 12 月 31 日現在	増減
名誉会員	6 名	6 名	0 名
正 会 員	2,984 名	2,940 名	44 名増
学生会員	1,044 名	1,081 名	37 名減
賛助会員	71 団体 (101 口)	67 団体 (97 口)	4 団体増 (4 口増)

2. 第 23 回総会

会 期：平成 17 年 3 月 9 日(水)

会 場：本郷瀬川ビル

出席社員数：91 名(うち委任状提出：60 名)

(正社員総数：95 名, 総会成立の定数 48 名以上)

議 題：平成 16 年度の事業・決算案, 平成 17 年度の事業計画・予算案, 個人会員除名処分, 理事・監事の選任の件, 評議員の選任の件

上記のついて審議し, 議決した。

3. シンポジウム, 講習会等の主催, 共催, 協賛, 後援(定款第 5 条 1 号, 5 号)

- (1) シンポジウム, 講演会, 講習会等 8 件を主催した。
- (2) シンポジウム, 国際会議, 講習会, コンテスト等 13 件を共催した。
- (3) シンポジウム, 国際会議, 講演会, 講習会, 展示会, 研究会等 102 件を協賛した。
- (4) シンポジウム, 国際会議, 講習会, コンテスト, 展示会等 14 件を後援・協力した。

4. 委員会

下記の委員会を開催した。

- (1) 会誌編集委員会 (委員長：浅間 一)

- (2) 欧文誌委員会 (委員長：山海嘉之)
- (3) 事業計画委員会 (委員長：堀 俊夫)
- (4) 国際委員会 (委員長：下倉健一朗)
- (5) 第 23 回学術講演会実行委員会 (委員長：吉田和夫)
- (6) 第 19 回論文賞選考委員会 (委員長：佐藤知正)
- (7) 第 20 回研究奨励賞選考委員会 (委員長：内山 隆)
- (8) 第 21 回研究奨励賞選考委員会 (委員長：和田充雄)
- (9) 第 10 回実用化技術賞選考委員会 (委員長：和田充雄)
- (10) 出版事業委員会 (委員長：久保田孝)
- (11) 電子化運営委員会 (委員長：佐藤知正)
- (12) 国際化検討委員会 (委員長：和田充雄)
- (13) アドバイザリーボード (委員長：内山 隆)
- (14) 将来ビジョン策定委員会 (委員長：内山 隆)
- (15) 事務局体制検討委員会 (委員長：佐藤知正)

5. 役員および評議員の選出

平成 17 年度の理事・監事ならびに評議員を選出した。

6. 評議員会, 理事会

(1) 平成 17 年 9 月 15 日(木)に第 23 回評議員会を開催し, 会務報告と評議を行った。

(2) 平成 17 年度中に 10 回理事会を開催し, 会務の審議と処理を行った。

7. フェロー, 名誉会員の選任

8 名のフェローを選任した。

8. 電子化運営委員会

- (1) ホームページの運用体制を強化した。
- (2) ロボット学会運営の効率化のための電子化を強化した。
- (3) Web 上でのバナー広告募集・運用を開始した。

9. 事務局

(1) 事務局体制小委員会を定期的で開催し, 中長期的な事務局体制について検討した。

(2) 事務局連絡会を月 1 度の頻度で開催し, 事務局内の運営の円滑化を図った。

(3) 電子化運営委員会と連携し, 会員サービスとして各種関連行事案内を推進した。

II 事 業(定款第 5 条 1 号)

1. 学術講演会・シンポジウム等

(1) 第 23 回学術講演会

期 日：2005 年 9 月 15 日(木)～ 17 日(土)

会 場：慶應義塾大学 日吉キャンパス

組 織：実行委員長：吉田和夫(慶應義塾大学)

プログラム委員長：前野隆司(慶應義塾大学)

発表件数：504 件

10 パラレルセッション

一般セッション：58 セッション

オーガナイズドセッション：21 セッション

合計 79 セッション

特別講演会：講師 下條信輔氏

テーマ「脳の意思決定機構と身体」

参加登録者数：1,193 名

(正会員 591 名, 学生会員 445 名, 非会員 46 名, 学生非会員 110 名, 招待者 1 名)

(2) 文科省科研費補助金・研究成果公開発表事業

「ロボット研究プロジェクト大集合」

期 日：2005 年 9 月 17 日(土)

会 場：慶應義塾大学日吉キャンパス

内 容：講演会およびロボット技術の展示・実演

参 加 者 数：講演会 約 300 名

2. ロボット工学セミナー

(1) 第29回シンポジウム「ヒューマノイドの新展開」

期 日：2005年3月2日(水)
 会 場：産業技術総合研究所臨海副都心センター
 講 師：梶田秀司(産総研), 林 恵玉(神奈川工科大),
 古田貴之(千葉工大), 西脇光一(産総研)
 オーガナイザ：森 武俊(東京大学)

参 加 者：65名(会員：43名, 会員外：5名, 学生：17名)

(2) 第30回シンポジウム「愛知万博次世代ロボット実用化プロジェクト」

期 日：2005年4月28日(木)
 会 場：東京工業大学デジタル多目的ホール
 講 師：西沢俊広(NEC), 下笹洋一(総合警備保障),
 松崎辰夫(ココロ), 青山 元(富士重工業),
 酒井龍雄(松下電工), 松本 治(産総研)

オーガナイザ：西沢俊広(NEC)

参 加 者：70名(会員：50名, 会員外：5名, 学生：15名)

(3) 第63回講習会「ロボットの作り方2005」

期 日：2005年5月25日(水), 26日(木)
 会 場：東京工業大学情報理工学大会議室
 講 師：広瀬茂男(東工大), 米田 完(東工大), 大隈
 久(中央大), 坪内孝司(筑波大)

オーガナイザ：飯島純一(組込みシステムデザイナー, 明星大学)

参 加 者：76名(会員：32名, 会員外：6名, 学生：38名)

(4) 第31回シンポジウム「便利なRTミドルウェアの使い方」

期 日：2005年7月13日(水)
 会 場：工学院大学
 講 師：末廣尚土(産総研), 北垣高成(産総研), 安藤
 慶昭(産総研)

オーガナイザ：尹 祐根(産総研)

参 加 者：56名(会員：25名, 会員外：8名, 学生：23名)

(5) 第32回シンポジウム「愛知万博実用化プロジェクト 未来を担うロボットたち」

期 日：2005年11月9日(水)
 会 場：工学院大学
 講 師：村上弘記(IHI), 吉見 卓(東芝), 松熊研司
 (安川電機), 細田祐司(日立), 高木宗谷(トヨタ)

オーガナイザ：村瀬有一(富士通研)

参 加 者：48名(会員：35名, 会員外：5名, 学生：8名)

(6) 第33回シンポジウム「未来医療を切り拓くRT～基礎から臨床最前線～」

期 日：2005年12月13日(火)
 会 場：早稲田大学理工学部
 講 師：山本博徳(自治医大), 森 健策(名古屋大), 梅
 津光生(早稲田大), 生田幸士(名古屋大), 橋爪
 誠(九州大)

オーガナイザ：岩田浩康(早稲田大)

参 加 者：38名(会員：21名, 会員外：9名, 学生：8名)

3. 共催事業・協賛

共催事業：

(1) 第10回ロボティクスシンポジウム

期 日：2005年3月14日(月), 15日(火)
 会 場：箱根ホテル小湧園(箱根町)
 実行委員長：國井康晴(中央大学理工学部)
 プログラム委員長：久保田孝(宇宙航空研究開発機構)
 発表件数：4パラレルセッション 96件
 参加者数：191名

(2) 第17回知能ロボットコンテスト・フェスティバル

期 日：2005年6月25日(土), 26日(日)
 会 場：仙台市科学館(仙台市青葉区)

主 催：ロボット競技会実行委員会, メカトロで遊ぶ会

実行委員長：高橋隆行(福島大学)

日本ロボット学会会長賞：山口辰久(風児2005)

(3) 第5回レスキューロボットコンテスト

期 日：2005年8月5日(金)～7日(日)

会 場：神戸国際展示場2号館(神戸市)

主 催：レスキューロボットコンテスト実行委員会

日本ロボット学会賞(ベストロボット賞)：都工機械電気1号

機「ドラム君」(都島工業高校)

4. 出版事業

「新版ロボット工学ハンドブック」が2005年5月25日に発行された。
 2005年度版会員名簿を2005年12月に発行した。

ロボット学会編集によるライブラリの充実について検討を進めた。

III 学 会 誌 (定款第5条2号)

学会誌第23巻1号より8号を発行し、会員に配布した。各号の特集
 テーマは次の通りである。

第23巻1号	ロボティクスのための生命理解	146頁
第23巻2号	ロボット研究の商品化	125頁
第23巻3号	進化するビジョン	110頁
第23巻4号	ロボット工学今昔物語	123頁
第23巻5号	世界のロボットプロジェクトとプロジェクト 投資戦略	134頁
第23巻6号	ネットワークロボット	127頁
第23巻7号	技能の起源と再現	151頁
第23巻8号	未来を拓くロボット研究者	100頁

また、平成17年度は、寄稿および査読に関する規則の改定(投稿者の資格の見直し, 論文の取り下げ記述の追加, 表記上の注意の明確化, 著者によるWebサイトの論文掲載の許可)を行うとともに、査読プロセスのさらなる効率化・査読期間の短縮化を図るべく、論文投稿・ハンドリング電子化のための準備作業を行った。事業担当理事と協力し、会員の専門分野のデータベース化を行った。投稿論文の査読者を決定する際に利用する予定である。

特集号企画に関しては、編集委員による独創的・魅力的企画立案に加え、一般会員による企画(一般企画)を開始した。一般企画は、ロボット関連プロジェクトの成果発表などに効果的に利用していただきたいと考えている。会員の関心が高いテーマに関する講座の企画も行った。

広告に関しては、会誌広告で目標額以上の広告収入を達成した。また、本学会ホームページ上におけるバナー広告を開始した。

また、これまでに会誌に掲載した講座や、ロボコンマガジンに連載している研究室紹介の書籍化・出版についても検討した。

会誌の年10号化, 12号化のフィージビリティについても検討を行った。

IV 欧 文 誌 (定款第5条2号)

1. 欧文誌編集・発行

Vol. 19を発行した。各号の詳細は以下の通りである。

No. 1	05.1	発行済み	一般論文
No. 2	05.3	発行済み	一般論文
No. 3	05.4	発行済み	Rescue Robotics (1)
No. 4	05.5	発行済み	一般論文
No. 5	05.6	発行済み	Compliant Motion: Modeling, Planning and Control
No. 6	05.7	発行済み	一般論文
No. 7	05.8	発行済み	Cybernoid
No. 8	05.9	発行済み	Rescue robotics (2)
No. 9	05.10	発行済み	一般論文
No. 10	05.11	発行済み	IROS 2004

2. 投稿および査読の状況

2005年における年間論文投稿総数は187本(一般論文・142本, 特集号論文・45本)であり, 2004年に比較して29本増えた結果となった(参考: 75(41%)2001年) 75(51%)2002年) 118(75%)2003年) 158(110%)2004年) ()内は一般論文)。

これは、投稿・掲載料無料、査読の迅速化における継続した努力、およびインパクトファクタの上昇の結果によるものであり、特に後述する2005年より導入の電子化投稿・査読システムによる貢献が大きいと考えられる。今後もそうした努力を継続し、欧文誌の価値をさらに高めていく。

また、2005年に投稿された論文の採否について、2006年2月10日現在、Accept 51件(39)、Reject 104件(86)、未決30件(16)、撤回2件(1)()内は一般論文)、採択率約32%(昨年約42%)となっている。投稿論文数の増加により、採択率はより厳しくなっており、欧文誌の質の向上につながっていると考えられる。

また、2005年投稿論文の投稿から採否決定までの期間は、平均約91.9日(約13.1週。一般論文は約86.1日)と、昨年の約107日(約15.2週。一般論文は約99日)に比べ、2週間の短縮を実現した(最短28日、最長189日)。一般論文についていえば、約12週での採否決定を実現した結果となっている。

3. 投稿・査読プロセスの電子化

2005年より電子投稿・査読システムを運用した。その結果、上述のように投稿から採否決定までの期間の短縮と、投稿数の増加に大きく貢献した。そのほか、書類コピー・カバーレター作成・封入作業・郵送に伴う作業をなくし、編集作業をより効率的に行えるようになったことも、査読の迅速化に貢献しているといえる。また経費面でも、切手代が204,200円(2004年)から37,000円(2005年)と、委員会資料の輸送以外の輸送コストが削減された。なお、2005年4月頃までは2004年投稿文の郵送事務があったため、2006年以降においてはさらに削減される見込である。

4. 企画/編集/発行作業

上述のように、大幅な投稿数の増加と採否決定まで迅速化を実現した一方で、年間ページ数の制約により、採否決定から掲載論文発行までの期間は1年ないしそれ以上という状況にある。そのため、欧文誌発行の共同事業者である Brill と交渉を行い、2006年発行の Vol. 20からは年12号(1,200ページ)の発行とするほか、電子購読を基本とすることで年間購読料を2,400円(会員)とすることで合意した。一方で、現在会員数4,000に対し、約200という購読者数を増やし、まず500以上とすることを2006年中の目標として設定した。同時に、これまで行ってきた賛助会員への無料配布を取りやめ、団体購読の推奨を行っている。また、国内大学・研究期間における購読が非常に少ない現状が判明したことから、会員が所属する機関における購読を推奨していく必要がある。

5. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information (ISI) 社の Citation Index の評価(インパクトファクタ)を高めるためには、被引用数を増やすことが重要である。そのため、特集号にはクオリティの高いサーベイ論文を掲載していくこととし、Web ページにおけるアブストラクト検索システムを運用している。

一般論文の投稿件数が毎年増加していることから、Advanced Robotics は国際的な学術論文誌としての認知がますます高まっている。欧文誌に掲載されることが、各論文執筆者の業績評価につながる指標(Citation Index など)獲得の点で有利なことを今後積極的にアピールしていきたい。別表に示すように、投稿数の内訳において、国際的に広い地域からの投稿を得ており、国際的認知度が向上していることがうかがえる。特に、中国、韓国、米国、台湾などからの投稿が2004年に比較して大幅に増加しており、アジア地域を主とした国際誌としての地位を築きつつあると考えられる。一方で、日本からの投稿数が減少しており、こうした国際誌としての価値の再認知を図る必要がある。

6. 国際化に向けての活動

2005年においては国際会議(ICRA 2005)の機会に合わせて国際編集委員会を開催し、海外委員に特集号の企画を依頼した。引き続き委員会の国際化についても努めていく。

V 企 画

1. 研究調査活動(定款5条3号)

- ・ロボット聴覚研究専門委員会 (委員長:奥乃 博, 2003.7 発足)
- ・学術講演会調査研究委員会 (委員長:小林 宏, 2003.11 発足)

- ・サービスロボット用安全認証研究専門委員会 (委員長:梅谷陽二, 2004.1 発足)
 - ・安全回復ロボティクス研究専門委員会 (委員長:新井健生, 2004.4 発足)
- 平成17年度に以下の調査・研究専門委員会を設置した。
- ・人と機械のライフログコンテンツ研究専門委員会 (委員長:佐藤金正, 2005.1 発足)

2. 規約等の制定・整備

実用化技術賞への応募増加策に伴う規定、応募要項の改訂を行った。

3. 表彰等(定款第5条4号)

2005年9月開催の第23回学術講演会において、以下の論文賞3件、実用化技術賞2件、研究奨励賞10件の贈賞を行った。また、ファンックFAロボット財団の論文賞に3件を推薦し、内1件が論文賞(賞金100万円)を受賞した。

【論文賞】

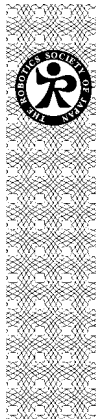
- ・平田泰久, 小宮一弘(東北大学), 浅間 一(東京大学), 嘉悦早人, 川端邦明(理化学研究所)
「キャスト特性を有した複数の人間協調型移動ロボット(DR Helper)と人間との協調による単一物体の搬送」
(日本ロボット学会誌 第21巻第7号, pp. 776-784)
- ・友納正裕, 油田信一(筑波大学)
「不正確さを許すマップと単眼ビジョンによる物体認識に基づく移動ロボットの屋内ナビゲーション」
(日本ロボット学会誌 第22巻第1号, pp. 83-92)
- ・梶田秀司, 金広文男, 金子健二, 藤原清司, 原田研介, 横井一仁, 比留川博久(産業技術総合研究所)
「分解運動量制御:運動量と角運動量に基づくヒューマノイドロボットの全身運動生成」
(日本ロボット学会誌 第22巻第6号, pp. 772-779)

【実用化技術賞】

- ・瀧口純一, 廣川 類, 梶原尚幸, 島 嘉宏, 黒崎隆二郎(三菱電機(株)), 日黒淳一, 石川貴一郎, 天野嘉春, 橋詰 匠(早稲田大学)
「GPS自律移動監視システム」
- ・飛田正俊, 西村利彦, 岡本 陽((株)神戸製鋼所), 藤原昭喜(コベルククレーン(株)), 上門俊夫(コベルク建機(株)), 玉田喜文(コベルククレーン(株))
「ラチスプーム自動溶接システムの開発」

【研究奨励賞】

- ・安藤慶昭(独立行政法人 産業技術総合研究所 知能システム研究部門)
「RT複合コンポーネントおよびコンポーネントマネージャの実装 RTミドルウェアの基本機能に関する研究開発(その8)」
(第22回学術講演会)
- ・大西正輝(独立行政法人 理化学研究所 バイオ・ミメティックコントロール研究センター)
「環境との相互作用を行うロボットの身まね学習方式」
(第22回学術講演会)
- ・大野和則(筑波大学大学院 工学研究科 知能機械工学専攻)
「屋外環境の三次元形状データに基づくランドマーク地図作成」
(第9回ロボティクスシンポジウム)
- ・菊植 亮(名古屋工業大学 工学部 機械工学科)
「触覚コンタクトレンズ効果の周波数領域解析」(第22回学術講演会)
- ・清水正宏(名古屋大学大学院 工学研究科 計算理工学専攻)
「制御系と機構系の有機的連関を活用したモジュラーロボットの創発的形態制御 原形質流動ならびに表面張力効果の検証」
(第22回学術講演会)
- ・高木 健(東京工業大学大学院 総合理工学研究所 メカノマイクロ工学専攻)
「多指ハンドに有効な負荷感応無段変速機構の性能評価」
(第9回ロボティクスシンポジウム)
- ・高山俊男(東京工業大学大学院 総合理工学研究科 メカノマイクロ工学専攻)



「レスキュー用連結クローラ走行車「蒼龍 III 号機」の開発」
(第 22 回学術講演会)
・中坊嘉宏(独立行政法人 理化学研究所 バイオ・ミメティックコントロール研究センター)
「人工筋肉を用いた生物模倣ヘビ型水中推進ロボット」
(第 22 回学術講演会)

・平井宏明(立命館大学 理工学部 ロボティクス学科)
「擬似ジャグリングタスクにおける受動的なタイミング選択」
(第 22 回学術講演会)
・丸山央峰(名古屋大学大学院 工学研究科 マイクロシステム工学専攻)
「機能性マイクロツールのオンチップ製作」 (第 22 回学術講演会)

【ファナック FA ロボット財団論文賞】

・平田泰久, 小菅一弘(東北大学), 浅間 一(東京大学), 嘉悦早人, 川端邦明(理化学研究所)
「キャスト特性を有した複数の人間協調型移動ロボット(DR Helper)と人間との協調による単一物体の搬送」
(日本ロボット学会誌 第 21 巻第 7 号, pp. 776-784)

4. 国際関連(定款第 5 条 1 号, 5 号)
本会に関連する国際会議を共催/協賛した.
主な共催会議:

- (a) 第 10 回人工生命とロボットに関するシンポジウム (AROB 10th '05)
期日: 2005 年 2 月 4 日~6 日, 会場: 大分, 日本
- (b) IEEE Workshop on Advanced Robotics and its Social Impacts (ARSO '05)
期日: 2005 年 6 月 12 日~15 日, 会場: 愛知, 日本
- (c) 2005 IEEE International Conference on Mechatronics and Automation (IEEE ICMA 2005)
期日: 2005 年 7 月 29 日~8 月 1 日, 会場: Niagara Falls, カナダ
- (d) 2005 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2005)
期日: 2005 年 8 月 2 日~6 日, 会場: Edmonton, カナダ
- (e) 14th IEEE International Workshop on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2005)
期日: 2005 年 8 月 13 日~15 日, 会場: Nashville, 米国
- (f) 2005 国際シンポジウム マイクロメカトロニクスとヒューマンサイエンス (MHS 2005)
期日: 2005 年 11 月 7 日~9 日, 会場: 愛知, 日本
- (g) International Symposium on Robotics (ISR 2005)
期日: 2005 年 11 月 29 日~12 月 1 日, 会場: 東京, 日本

国際化検討委員会:

本会に関わる国際関連業務の見通しと体制を検討するため, 国際化検討委員会(委員長・和田, 幹事・下倉, 神田, 橋本(浩), 鈴木, 山海, 堀, 倉林, 浅間)を組織した. 2005 年 9 月~2006 年 1 月にかけて 4 回の委員会を開催した. 検討結果を下記に示す.

- ・RO-MAN 共催に関する NDA 再締結.
- ・国際担当理事の設置, 国際委員会の担務に関する検討, 規約改定案の作成, 将来ビジョン検討委員会への提案.
- ・英文ホームページの改定案策定. 電子化運営委員会と連携した実現シナリオの策定.

【第2号議案】

平成17年度収支決算書報告

I 一般会計

平成17年度収支計算書

平成17年1月1日から平成17年12月31日まで

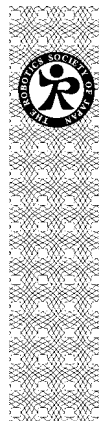
収入の部 (単位：円)

科 目	決 算 額
1. 基本財産運用収入	6,300
基本財産利息収入	6,300
2. 会費収入	42,760,000
正会員会費	29,950,000
学生会員会費	4,650,000
賛助会員会費	8,160,000
3. 入会金収入	513,000
正会員入会金	137,000
学生会員入会金	376,000
4. 事業収入	34,852,200
会誌掲載料	14,765,100
欧文誌事業	1,000,000
学術講演会	15,445,100
講習会	2,462,000
公開シンポジウム	1,180,000
5. 諸収入	13,419,623
受取利息	430
広告料収入	8,022,617
資料頒布収入	3,173,302
雑収入	2,223,274
当期収入合計(A)	91,551,123
前期繰越収支差額	38,444,568
収入合計(B)	129,995,691

注1. 公開シンポジウム収入は、文部科学省からの交付金である。

支出の部 (単位：円)

科 目	決 算 額
1. 事業費	42,420,272
会誌事業費	25,262,884
出版費	(16,079,998)
郵送費	(5,518,864)
編集費	(2,027,980)
電子化準備委員会費	(1,636,042)
欧文誌事業費	3,832,998
編集費	(478,718)
業務委託費	(2,760,000)
出版費	(594,280)
学術講演会開催費	9,560,678
講習会開催費	1,129,296
公開シンポジウム開催費	1,180,000
専門委員会費	500,000
研究専門委員会費	(400,000)
調査専門委員会費	(100,000)
広告制作費	574,733
表彰費	379,683
2. 管理費	38,337,382
総会費	738,228
給料手当	20,774,046
臨時雇賃金	156,898
福利厚生費	2,543,866
旅費交通費	92,240
通信運搬費	605,802
備品消耗品費	568,622
会議費	440,242
印刷製本費	1,024,411
光熱水料費	336,853
賃借料	6,413,446
災害保険料	6,000
諸謝金	1,204,105
租税公課	7,000
会費収納費	762,068
雑費	2,663,555
3. 雑損失	1,006,000
雑損失	1,006,000
4. 敷金・保証金支出	63,000
敷金支出	63,000
5. 特定預金支出	882,089
退職給与引当預金支出	882,089
6. 繰入金支出	9,500,000
学術集会開催基金繰入金支出	4,000,000
刊行物発行基金繰入金支出	4,000,000
国際会議等開催基金繰入金支出	1,500,000
7. 予備費	0
予備費	0
当期支出合計(C)	92,208,743
当期収支差額(A)-(C)	657,620
次期繰越収支差額(B)-(C)	37,786,948



正味財産増減計算書

平成 17 年 1 月 1 日から平成 17 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
増加の部		
1. 資産増加額		
敷金増加額	63,000	
退職給与引当預金増加額	882,139	945,139
増加額合計		945,139
減少の部		
1. 資産減少額		
当期収支差額	657,620	657,620
2. 負債増加額		
退職給与引当金繰入額	882,139	882,139
減少額合計		1,539,759
当期正味財産減少額		594,620
前期繰越正味財産額		62,931,968
期末正味財産合計額		62,337,348

貸借対照表

平成 17 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(流動資産)	(65,880,004)	(流動負債)	(28,093,056)
現 金	726,861	未 払 金	154,755
普 通 預 金	46,978,263	前 受 会 費	26,619,000
振 替 貯 金	11,612,217	預 り 金	1,319,301
郵 便 貯 金	1,000,120	(固定負債)	(6,441,761)
未 収 会 費	1,994,000	退職給与引当金	6,441,761
未 収 金	2,338,655		
前 払 金	1,052,888		
立 替 金	177,000		
(固定資産)	(30,992,161)	(正味財産)	(62,337,348)
[基本資産]	(21,000,000)	正 味 財 産	62,337,348
定 期 預 金	21,000,000	[うち基本金]	[21,000,000]
(有形固定資産)	(834,300)	[当期正味財産減少額]	[594,620]
什 器 備 品	834,300		
[その他の固定資産]	(9,157,861)		
退職給与引当預金	6,441,761		
電 話 加 入 権	153,100		
敷 金	63,000		
保 証 金	2,500,000		
資 産 合 計	96,872,165	負 債 ・ 正 味 財 産 合 計	96,872,165

II 刊行物発行基金

平成 17 年度収支計算書

平成 17 年 1 月 1 日から平成 17 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
刊行物発行基金繰入	4,009,253	受 取 利 息	9,253
		一般会計繰入金収入	4,000,000
合 計	4,009,253	合 計	4,009,253

正味財産増減計算書

平成 17 年 1 月 1 日から平成 17 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
増加の部		
1. 資産増加額		
刊行物発行基金繰入額	4,009,253	4,009,253
増加額合計		4,009,253
当期正味財産増加額		4,009,253
前期繰越正味財産額		40,945,270
期末正味財産合計額		44,954,523

貸借対照表

平成 17 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(固定資産)	(44,954,523)	(正味財産)	(44,954,523)
その他の固定資産	44,954,523	正 味 財 産	44,954,523
普通預金	24,942,466	[当期正味財産増加額]	[4,009,253]
定期預金	20,012,057		
合 計	44,954,523	合 計	44,954,523

III 学術集会開催基金

平成 17 年度収支計算書

平成 17 年 1 月 1 日から平成 17 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
学術集会開催基金繰入	4,007,077	受 取 利 息	7,077
		一般会計繰入金収入	4,000,000
合 計	4,007,077	合 計	4,007,077

正味財産増減計算書

平成 17 年 1 月 1 日から平成 17 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
I 増加の部		
1. 資産増加額		
学術集会開催基金繰入額	4,007,077	4,007,077
増加額合計		4,007,077
当期正味財産増加額		4,007,077
前期繰越正味財産額		38,463,069
期末正味財産合計額		42,470,146

貸 借 対 照 表

平成 17 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(固定資産)	(42,470,146)	(正味財産)	(42,470,146)
その他の固定資産	42,470,146	正 味 財 産	42,470,146
普通預金	19,392,129	[当期正味財産増加額]	[4,007,077]
定期預金	23,078,017		
合 計	42,470,146	合 計	42,470,146

IV 国際会議および共催会議開催基金

平成 17 年度収支計算書

平成 17 年 1 月 1 日から平成 17 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
表 彰 費	463,065	受 取 利 息	165
国 際 会 議 派 遣 費	202,773	雑 収 入	2,724,024
雑 費	14,000	一般会計繰入金収入	1,500,000
国際会議及び共催 会議開催基金繰入	3,544,351		
合 計	4,224,189	合 計	4,224,189

正味財産増減計算書

平成 17 年 1 月 1 日から平成 17 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
I 増加の部		
1. 資産増加額		
国際会議及び共催会議開催基金繰入額	3,544,351	3,544,351
増加額合計		3,544,351
当期正味財産増加額		3,544,351
前期繰越正味財産額		16,798,540
期末正味財産合計額		20,342,891

貸 借 対 照 表

平成 17 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(固定資産)	(20,342,891)	(正味財産)	(20,342,891)
その他の固定資産	20,342,891	正 味 財 産	20,342,891
普通預金	18,128,216	[当期正味財産増加額]	[3,544,351]
仮 払 金	2,214,675		
合 計	20,342,891	合 計	20,342,891



V 総 括 表

平成 17 年度収支計算書総括表
平成 17 年 1 月 1 日から平成 17 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び 共催会議開催基金	内部取引 消却
I 収入の部						
基本財産運用収入	6,300	6,300				
会 費 収 入	42,760,000	42,760,000				
入 会 金 収 入	513,000	513,000				
事 業 収 入	34,852,200	34,852,200				
諸 収 入	16,160,142	13,419,623	9,253	7,077	2,724,189	
一般会計繰入金収入	0		4,000,000	4,000,000	1,500,000	9,500,000
当期収入合計	94,291,642	91,551,123	4,009,253	4,007,077	4,224,189	9,500,000
前期繰越収支差額	38,444,568	38,444,568	0	0	0	0
収入合計	132,736,210	129,995,691	4,009,253	4,007,077	4,224,189	9,500,000
II 支出の部						
事 業 費	43,100,110	42,420,272			679,838	
管 理 費	38,337,382	38,337,382				
雑 損 失	1,006,000	1,006,000				
敷金・保証金支出	63,000	63,000				
特定預金支出	882,089	882,089				
繰入金支出	0	9,500,000				9,500,000
予 備 費	0	0				
刊行物発行基金繰入	4,009,253		4,009,253			
学術集会開催基金繰入	4,007,077			4,007,077		
国際会議及び共催 会議開催基金繰入	3,544,351				3,544,351	
当期支出合計	94,949,262	92,208,743	4,009,253	4,007,077	4,224,189	9,500,000
当期収支差額	657,620	657,620	0	0	0	0
次期繰越収支差額	37,786,948	37,786,948	0	0	0	0

平成 17 年度正味財産増減計算書総括表
平成 17 年 1 月 1 日から平成 17 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び 共催会議開催基金
増加の部					
資 産 増 加 額	12,505,820	945,139	4,009,253	4,007,077	3,544,351
増加額合計	12,505,820	945,139	4,009,253	4,007,077	3,544,351
減少の部					
資 産 減 少 額	657,620	657,620			
負債増加額	882,139	882,139			
減少額合計	1,539,759	1,539,759	0	0	0
当期正味財産増加額	10,966,061	594,620	4,009,253	4,007,077	3,544,351
前期繰越正味財産額	159,138,847	62,931,968	40,945,270	38,463,069	16,798,540
期末正味財産合計額	170,104,908	62,337,348	44,954,523	42,470,146	20,342,891

平成 17 年度借対照表総括表

平成 17 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び 共催会議開催基金
資産の部					
流 動 資 産	65,880,004	65,880,004			
固 定 資 産	138,759,721	30,992,161	44,954,523	42,470,146	20,342,891
(うち基本財産)	(21,000,000)	(21,000,000)			
資産合計	204,639,725	96,872,165	44,954,523	42,470,146	20,342,891
負債の部					
流 動 負 債	28,093,056	28,093,056			
固 定 負 債	6,441,761	6,441,761			
負債合計	34,534,817	34,534,817	0	0	0
正味財産の部					
正 味 財 産	170,104,908	62,337,348	44,954,523	42,470,146	20,342,891
負債及び正味財産合計	204,639,725	96,872,165	44,954,523	42,470,146	20,342,891

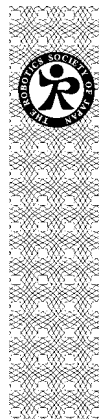
お 知 ら せ

財 産 目 録

平成 17 年 12 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額	
資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金 手許有高	726,861	
普通預金 東京三菱銀行本店	15,810,461	
〃 みずほ銀行本郷支店	15,596,840	
〃 みずほ銀行本郷支店	6,580,832	
〃 りそな銀行本郷支店	8,990,130	
振替貯金 本郷一郵便局	11,612,217	
郵便貯金 本郷一郵便局	1,000,120	
未収会費 会費 平成 17 年度分	1,994,000	
未収金 学会誌投稿料・広告料他	2,338,655	
前払金 平成 18 年 1 月分事務所家賃他	1,052,888	
立替金 欧文誌購読料	177,000	
流動資産合計		65,880,004
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
定期預金 基本財産(東京三菱銀行 自由金利型定期)	21,000,000	
基本財産合計	21,000,000	
(2) 有形固定資産		
什器備品 事務用器具備品	834,300	
有形固定資産合計	834,300	
(3) その他の固定資産		
退職給与引当預金 東京三菱銀行春日町支店	6,441,761	
電話加入権 2 本	153,100	
敷金 賃貸借契約敷金	63,000	
保証金 賃貸借契約保証金	2,500,000	
刊行物発行基金 普通預金 みずほ銀行本郷支店	11,892,145	
〃 〃 三井住友銀行小石川支店	13,050,321	
〃 定期預金 東京三菱銀行本店	10,000,000	
〃 〃 りそな銀行本郷支店	10,012,057	
学術集会開催基金 普通預金 〃	14,310,901	
〃 〃 三菱信託銀行本店営業部	5,081,228	
〃 定期預金 東京三菱銀行本店	10,078,017	
〃 〃 三菱信託銀行本店営業部	13,000,000	
国際会議及び 普通預金 りそな銀行本郷支店	18,128,216	
共催会議開催基金 仮払金 IROS 2005, 2006 分担金他	2,214,675	
その他の固定資産合計	116,925,421	
固定資産合計		138,759,721
資産合計		204,639,725
負債の部		
1. 流動負債		
未払金 会計顧問料他	154,755	
前受会費 会費前受分	26,619,000	
預り金 源泉所得税	370,472	
〃 住民税	48,000	
〃 社会保険料	614,029	
〃 欧文誌購読料	286,800	
流動負債合計		28,093,056
2. 固定負債		
退職給与引当金 退職給与分	6,441,761	
固定負債合計		6,441,761
負債合計		34,534,817
正味財産		170,104,908



監 査 報 告 書

社団法人 日本ロボット学会
会 長 内 山 隆 殿

私共監事2名は、この総会資料に記載されている平成17年度の事業報告書ならびに同年度の一般会計、刊行物発行基金、学術集会開催基金、国際会議および共催会議開催基金に関する収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録などにつき監査を実施しました。

監査の結果、いずれも一般に公正妥当と認められる公益法人の会計基準に準拠し、前年度と同一の会計方針を適用しており、また定款の定めに基づいているものと認めます。

以上

平成18年3月3日

社団法人 日本ロボット学会
監事 大 島 正 毅 ㊟
監事 中 野 榮 二 ㊟

【第3号議案】

平成18年度 事業計画案
(自平成18年1月1日 至平成18年12月31日)

I 庶 務

1. 第24回総会

会 期：平成18年3月10日(金)

会 場：本郷瀬川ビル

2. 委員会活動

下記の委員会を開催する。

- | | |
|----------------------|------------|
| (1) 会誌編集委員会 | (委員長：金子 真) |
| (2) 欧文誌委員会 | (委員長：鈴木高宏) |
| (3) 事業計画委員会 | (委員長：倉林大輔) |
| (4) 国際委員会 | (委員長：佐藤知正) |
| (5) 研究協議会 | (委員長：和田充雄) |
| (6) 出版事業委員会 | (委員長：國井康晴) |
| (7) 電子化運営委員会 | (委員長：佐藤知正) |
| (8) アドバイザリーボード | (委員長：内山 隆) |
| (9) 将来ビジョン策定委員会 | (委員長：内山 隆) |
| (10) 事務局体制検討委員会 | (委員長：佐藤知正) |
| (11) 第24回学術講演会実行委員会 | (委員長：則次俊郎) |
| (12) 第20回論文賞選考委員会 | (委員長：和田充雄) |
| (13) 第21回研究奨励賞選考委員会 | (委員長：和田充雄) |
| (14) 第22回研究奨励賞選考委員会 | (委員長：佐藤知正) |
| (15) 第11回実用化技術賞選考委員会 | (委員長：佐藤知正) |

3. 役員・評議員の選出

平成18年度の理事・監事、ならびに評議員を選出する。

4. フェロー、名誉会員の選任

フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。

5. 学会の基盤強化

会員数の増強を図るため、広報活動を重視し、入会勧誘を引き続き推進する。

6. 電子化運営委員会

- (1) 和文、英文HPの構成を統一的に変更し、情報発信の迅速化および国際化への対応を強化する。
- (2) 学会内イントラを拡充するとともに、学会内の電子化・情報化を進める。
- (3) 事務作業のいっそうの効率化をはかるため、学会内のデータベース機能の強化を進める。

7. 事務局

学会の将来ビジョンの迅速な実行を進めるとともに、中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する。

II 事 業 (定款第5条1号)

1. 学術講演会・シンポジウム等

(1) 第24回学術講演会

期 日：2006年9月14日(木)~16日(土)

会 場：岡山大学津島キャンパス

実行委員長：則次俊郎(岡山大学)

プログラム委員長：鈴森康一(岡山大学)

2. ロボット工学セミナー

(1) 第34回シンポジウム「人とコミュニケーションするヒューマノイド」

期 日：2006年3月2日(木)

会 場：産業技術総合研究所臨海副都心センター

(2) 第35回シンポジウム「脳型情報処理入門」

期 日：2006年4月25日(火)

会 場：東京大学

(3) 第64回講習会「ロボットの作り方2006～基礎から製作テクニックまで～」

期 日：2006年5月24日(水)、25日(木)

会 場：東京工業大学(予定)

(4) 第36回シンポジウム「聴くロボット～ロボットのための音響・

音声処理～

期 日：2006年7月(予定)

会 場：工学院大学(予定)

(5) 第37回シンポジウム「浮かぶロボット～軽航空機ロボティクス～」

期 日：2006年10月(予定)

会 場：工学院大学(予定)

(6) 第38回シンポジウム「ホームロボット～生活を支援するロボティクス～」

期 日：2006年11月(予定)

会 場：工学院大学(予定)

3. 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。

共催事業：

(1) 第11回ロボティクスシンポジウム

期 日：2006年3月16日(木), 17日(金)

会 場：ホテル桜(佐賀県)

実行委員長：木口量夫(佐賀大学)

プログラム委員長：山本元司(九州大学)

(2) ロボカップ・ジャパンオープン 2006

期 日：2006年5月4日(木)～6日(土)

会 場：西日本総合展示場(福岡県北九州市)

実行委員会会長：末吉興一(北九州市市長)

競技運営委員会委員長：松原 仁(公立はこだて未来大学)

(3) 第18回知能ロボットコンテスト・フェスティバル

期 日：2006年6月24日(土), 25日(日)

会 場：仙台市科学館(宮城県仙台市)

主 催：ロボット競技会実行委員会, メカトロで遊ぶ会

実行委員長：熊谷正朗(東北学院大学)

(4) 第6回レスキューロボットコンテスト

期 日：(予選)2006年7月9日(日),

(決勝)2006年8月5日(土), 6日(日)

会 場：神戸サンボーホール(神戸市中央区)

主 催：ロボット×レスキュー2006実行委員会

実行委員長：升谷保博(大阪電気通信大学)

4. 出版事業

講習会やセミナーで行われた内容の図書化などロボット学会編集によるライブラリの出版化について具体的に検討する。また、会誌関連記事などの出版化についても会誌編集委員会と協力して進める。

III 学 会 誌(定款第5条2号)

学会誌第24巻第1号より第8号を1月, 3月, 4月, 5月, 7月, 8月, 10月, 11月に刊行し, 会員に配布する。各号の特集テーマは以下のものを予定している。

第24巻1号 ロボットキット

第24巻2号 愛・地球博

第24巻3号 ロボットビジネスへの取り組み

第24巻4号 スマートマテリアル/コンポジット

第24巻5号 Women in Robotics(仮)

第24巻6号 感性心理とロボティクス(仮)

第24巻7号 実世界の性質を利用した認知と制御(仮)

第24巻8号 環境知能化(仮)

また,平成18年度は,前年度に引き続き,魅力的な特集号の企画,講座の企画,広告の取得,電子化の推進,会誌関連記事の出版化,規定の見直しなどについて取り組むとともに,査読プロセスのさらなる効率化・査読期間の短縮化のための査読プロセスの見直し,電子投稿システムの導入を行う。専門分野のデータベースを用いた査読者決定に関しては,電子化運営委員会が検討を行っている統合データベースの構築に伴い,具体的導入方法を検討する。

中長期目標として,電子化・国際化戦略に基づき,和文誌のあり方について議論をするとともに,論文誌の電子ジャーナル化,学会誌の10号化,12号化などの可能性について検討を進め,さらには,論文の国際的な発信力を増大させるため,和文投稿論文誌の欧文誌への統合

の可能性などについても議論を行う。

IV 欧 文 誌(定款第5条2号)

1. 欧文誌 Advanced Robotics の発行計画

下記のとおり,2006年度においてはVol. 20の年12回の発行を計画している。

No. 1	06.1	発行済	一般論文
No. 2	06.2	発行済	一般論文
No. 3	06.3	発行予定	Haptic Display: Beyond Visual and Aural Interaction
No. 4	06.4	発行予定	一般論文
No. 5	06.5	発行予定	一般論文
No. 6	06.6	発行予定	一般論文
No. 7	06.7	発行予定	一般論文
No. 8	06.8	発行予定	Development and Learning
No. 9	06.9	発行予定	一般論文
No. 10	06.10	発行予定	IROS 2005
No. 11	06.11	発行予定	一般論文
No. 12	06.12	発行予定	一般論文

既に採否決定している論文の掲載を早めるため,当面は特集号企画を抑え,一般論文の号を増やす計画とした。

2. 欧文誌の内容向上と講読数増に向けて

3年以内に,ロボット関係のJournalの中で5位以内のインパクトファクタ(ISI社の引用件数ランキング)を獲得することを引き続き目標とする。2006年においては,全会員への配布を目指すと同時に,団体講読数を増やすことも目標とする。国際誌としての認知度が高まっていることをより広く認知させることで,講読数の増加と同時に,国内からの投稿件数も増加させることも目標として活動を行っていく。

3. 国際化に向けての活動

国際委員会と協力し,Advanced Roboticsを活用した日本ロボット学会の国際化をさらに推進する。既に国際委員会・電子化運営委員会において検討が進んでいる学会英文ページの整備や,それによる外国人会員向けの情報発信などの国際化活動により,今後外国人会員の増加が見込まれ,それに伴うARの講読数・引用数・投稿数の増加を狙った活動を行っていく。電子化査読システムにより容易となったことから,海外への査読依頼をさらに増加させて知名度の向上を目指していく。また,引き続き主要な国際会議(ICRA 2006, IROS 2006)に合せて国際編集委員会を開催する。

4. 共同事業者である Brill 社との交渉・契約

2006年中に,20年来旧VSPとの当初の発行形態に基づき取り交わされた契約書を改訂し,契約を交わす予定である。そのため,契約書案における交渉を行っていく。既に年12号発行とそれによる増ページ,Institute 価格の設定,電子講読を基本とした価格設定などを実現したことに加え,関係学会との連携や,現在定額の編集料を講読数に応じた体系とすることで,学会側にとっても講読数の増加にメリットがあるビジネスモデルを導入する案などを検討している。また,昨年の覚書取り交わしに基づき,電子講読に伴う会員認証システムを学会側に設置するため,その検討作業を開始している。

V 企 画

1. 調査・研究専門委員会活動(定款第5条3号)

前年度より継続の以下の調査・研究専門委員会による委員会調査活動を行う。

2005年度から継続の研究専門委員会

・安全回復ロボティクス研究専門委員会

(委員長:新井健生,2004.4発足)

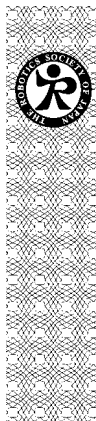
・人と機械のライフログコンテンツ研究専門委員会

(委員長:佐藤知正,2005.1発足)

研究専門委員会に関しては,将来ビジョン検討委員会の答申に基づき,常設委員会と時限委員会の2種類の委員会構成とする新たな枠組みをスタートさせる。

2. 表彰(定款第5条4号)

第24回学術講演会において,論文賞,実用化技術賞および研究奨励賞の表彰を行う。



第 23 回学術講演会では、表彰式において実用化技術賞受賞者による技術紹介を実施したが、出席者・受賞者の双方にとって魅力のある場となるよう、論文賞等についても記念講演等の実施を含めた検討を行う。

VI 国 際

1. 国際関連（定款第 5 条 1 号，5 号）

国際担当理事を中心に関連する理事のメンバが情報を共有し、連携して効率的に業務を進める体制を構築することは不可欠となる。このため、現行の国際関連の規定を改定し、担務とフォーメーションを明文化することとする。現行の国際関連業務に関しては、国際会議の主催に向けて国際委員会の設置・運営に関する規定が定められている。この国際委員会のミッションをシフトし、国際関連業務全般を取り扱う機関とする。2007 年度より国際担当理事を新設するのに伴い、企画担当理事 1 名，事業担当理事 1 名を国際担当として以下の業務を行う。

本会の国外向け会員サービス：

- ・ホームページの積極的活用による情報発信
- ・海外ロボット関連学会との連携
- ・主催・共催する国際会議に関する事項の統轄

主な共催会議予定：

- (a) 第 11 回人工生命とロボットに関する国際シンポジウム (AROB 11th '06)
期日：2006 年 1 月 23 日～ 25 日，会場：大分，日本
- (b) 2006 IEEE International Conference on Mechatronics and Automation (IEEE ICMA 2006)
期日：2006 年 6 月 25 日～ 28 日，会場：洛陽，中国
- (c) 15th IEEE International Workshop on Robot and Human Interactive Communication (RO MAN 2006)
期日：2006 年 9 月 6 日～ 8 日，会場：Hatfield，イギリス
- (d) 2006 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2006)
期日：2006 年 10 月 9 日～ 15 日，会場：北京，中国

【第 4 号議案】

平成 18 年度収支予算書（案）

I 一般会計

平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日まで

収入の部

（単位：円）

科 目	予 算 額
1. 基本財産運用収入	6,000
基本財産利息収入	6,000
2. 会費収入	43,184,000
正会員会費	30,540,000
学生会員会費	4,564,000
賛助会員会費	8,080,000
3. 入金収入	470,000
正会員入金	130,000
学生会員入金	340,000
4. 事業収入	30,830,000
会誌掲載料	15,000,000
欧文誌事業	1,200,000
学術講演会	12,950,000
講習会	1,680,000
公開シンポジウム	0
5. 諸収入	10,300,500
利息収入	500
広告料収入	6,000,000
資料頒布収入	3,300,000
雑収入	1,000,000
当期収入合計 (A)	84,790,500
前期繰越収支差額	37,786,948
収入合計 (B)	122,577,448

注 1. 借入金限度額 0 円

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額
1. 事業費	47,810,000
会誌事業費	27,000,000
出版費	(16,500,000)
郵送費	(5,500,000)
編集費	(3,000,000)
電子化運営委員会費	(2,000,000)
欧文誌事業費	4,160,000
編集費	(800,000)
業務委託費	(2,760,000)
出版費	(600,000)
学術講演会開催費	12,950,000
講習会開催費	1,600,000
公開シンポジウム開催費	0
専門委員会費	500,000
研究専門委員会費	(400,000)
調査専門委員会費	(100,000)
広告制作費	600,000
表彰費	1,000,000
2. 管理費	45,750,000
総給料会費	800,000
臨時雇賃金	26,000,000
福利厚生費	500,000
旅費交通費	3,000,000
通信運搬費	200,000
備品消耗品費	1,000,000
会議費	800,000
印刷製本費	600,000
光熱水料費	1,000,000
貸借料	500,000
諸謝金	7,200,000
租税公課	1,300,000
会費収納費	1,100,000
雑費	750,000
雑損失	1,000,000
3. 雑損失	1,300,000
刷損	1,300,000
4. 特定預金支出	1,300,000
退職給与引当預金支出	1,000,000
5. 繰入金支出	1,000,000
学術集会開催基金繰入金支出	0
刊行物発行基金繰入金支出	0
6. 予備費	0
予備費	1,000,000
予備費	1,000,000
当期支出合計(C)	96,860,000
当期収支差額(A)-(C)	12,069,500
次期繰越収支差額(B)-(C)	25,717,448

注1. 債務負担額 0円

II 刊行物発行基金

平成18年度刊行物発行基金収支予算書(案)

平成18年1月1日から平成18年12月31日まで

収入の部 (単位：円)

科 目	予 算 額
1. 事業収入	0
2. 利息収入	15,000
3. 雑収入	0
4. 一般会計繰入金収入	0
当期収入合計	15,000
前期繰越収支差額	0
収入合計	15,000

支出の部 (単位：円)

科 目	予 算 額
1. 事業費	0
2. 雑損失	0
3. 刊行物発行基金繰入	15,000
当期支出合計	15,000
当期収支差額	0
次期繰越収支差額	0

III 学術集会開催基金

平成18年度学術集会開催基金収支予算書(案)

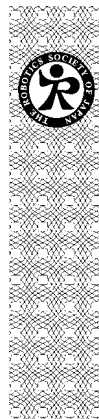
平成18年1月1日から平成18年12月31日まで

収入の部 (単位：円)

科 目	予 算 額
1. 事業収入	0
2. 利息収入	15,000
3. 雑収入	0
4. 一般会計繰入金収入	0
当期収入合計	15,000
前期繰越収支差額	0
収入合計	15,000

支出の部 (単位：円)

科 目	予 算 額
1. 事業費	0
2. 雑損失	0
3. 学術集会開催基金繰入	15,000
当期支出合計	15,000
当期収支差額	0
次期繰越収支差額	0



お 知 ら せ

IV 国際会議および共催会議開催基金

平成 18 年度国際会議および共催会議開催基金収支予算書(案)

平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日まで

収入の部 (単位:円)	
科 目	予 算 額
1. 事業収入	0
2. 利息収入	1,000
3. 雑収入	0
4. 一般会計繰入金収入	0
5. 国際会議及び 共催会議開催基金取崩収入	919,000
当期収入合計	920,000
前期繰越収支差額	0
収入合計	920,000
支出の部 (単位:円)	
科 目	予 算 額
1. 事業費	920,000
表彰費	400,000
国際会議派遣費	500,000
雑費	20,000
2. 雑損失	0
当期支出合計	920,000
当期収支差額	0
次期繰越収支差額	0

V 総 括 表

平成 18 年度収支予算書総括表

平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日まで

収入の部 (単位:円)					
科 目	合 計	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び共催 会議開催基金
収入の部					
基本財産運用収入	6,000	6,000			
会 費 収 入	43,184,000	43,184,000			
入 会 金 収 入	470,000	470,000			
事 業 収 入	30,830,000	30,830,000			
諸 収 入	10,331,500	10,300,500	15,000	15,000	1,000
一般会計繰入金収入	0		0	0	0
国際会議及び共催 会議開催基金取崩収入	919,000				919,000
当期収入合計	85,740,500	84,790,500	15,000	15,000	920,000
前期繰越収支差額	37,786,948	37,786,948	0	0	0
収 支 合 計	123,527,448	122,577,448	15,000	15,000	920,000
支出の部					
事 業 費	48,730,000	47,810,000			920,000
管 理 費	45,750,000	45,750,000			
雑 損 失	1,300,000	1,300,000			
特 定 預 金 支 出	1,000,000	1,000,000			
繰 入 金 支 出	0	0			
予 備 費	1,000,000	1,000,000			
刊行物発行基金繰入	15,000		15,000		
学術集会開催基金繰入	15,000			15,000	
当期支出合計	97,810,000	96,860,000	15,000	15,000	920,000
当期収支差額	12,069,500	12,069,500	0	0	0
次期繰越収支差額	25,717,448	25,717,448	0	0	0

【第 5 号議案】

個人会員除名処分の件

日本ロボット学会定款の第 11 条(2)に基づき除名処分を行う。
除名対象者数を以下に示す。

正会員 64 名
学生会員 84 名
合 計 148 名